

鶴岡ロータリークラブ会報

842

1976-2-10 No.33

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
例会日 毎週火曜日 午後 12.30 ~ 1.30
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235 (22) 5775
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 勲

◆ 点 鐘

◆ ロータリーソング (我等の生業)

◆ ビジターゲスト紹介

ローターアクトクラブ 大中 君

阿部清三先生 (鶴岡工業高校)

◆ 会長報告

◆ 台中表敬訪問スケジュール他説明

◆ 訪問時メッセージ披露 (後述)

◆ 鶴岡RC20周年記念式典に招待状を伝達したい

◆ 幹事報告

◆ 酒田東RC 2月26日 クラブ協議会開催の為、
2月26日午後5時30分 御園別館に変更

◆ 新会員予定者の氏名発表

◆ 阿部清三氏スピーチ (後述)

(インターアクト米国研修旅行随員、鶴岡工業高校英語教師)

◆ ローターアクト大中君挨拶

◆ 老人ホーム (ともえ荘) 白鳥の餌付案の計画と細部説明及び協力依頼

◆ 委員会報告 張 君

◆ 予定新入会員に関して説明

◆ 出席報告

◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING 人間に威信を、

台中表敬訪問に際してのメッセージ

祝詞

本日玆に貴台中港区扶輪社と我が鶴岡ロータリークラブとの姉妹盟約1周年の記念式典を挙行せらるるに当り、御丁重なる御招待をいただき一行10数名が表敬訪問出来ましたことは誠に有難く且、光栄に存じ一同の感激これに過ぐるものは御座いません。

かえりみれば一昨年来両社友の交流やメッセージの交換、社友相互の文通等日々に親交は深まり海を隔てた遙かなる距離やその国情、気候、風土、風俗、習慣、文化、産業等大きな相違のあるに拘らず何の障碍もなく寧ろそれ等の相違が日を追って相互理解となり好意と友情は益々深まり一歳ならずして誠にスムーズに昨年3月8日姉妹クラブ盟友の契りを結ぶに至り、その式典には数名の会員が参列し大変な御接待を受け、4月には遠路遙々現社長呉先生を始め4名の社友の御来訪をいただき全会員親しく交歓出来ましたことは今にさめやらぬ感激で御座います。

それから早や一年本日玆に姉妹盟約1周年記念式を挙行せらるるに当り百年の知己を訪ねる喜びで大挙表敬訪問いたした次第で御座います。勿論全会員が等しく訪問を希望しておりましたが、御高承の通り目下我が国は経済その他万般に激動の時機にありましてその意の叶わなかった会員の多くおったことを残念に存じております。

しかし今回の表敬訪問は独り当クラブの喜びのみならず当市並びに当353地区全体の同慶を得ておりますことは市長並びにガバナー、パストガバナー会員の御挨拶によっても御承知いただけることと存じます。ロータリアン同志の交友が時ならずして斯くも広く大きく且つ深く友愛同慶の輪となって拡まることは今更乍らロータリーの偉大さに感銘を新たにすると共に之を通じて現在ある我が国の救国の主とも尊敬する故蔣總統閣下の「以德報怨」の筆舌に尽し難い終生忘れ得ない大恩義に報ゆる一斑にもなることと深く心に銘じ、今後益々姉妹盟約書に明記した目的即ち「日華兩國の親睦と相互理解を促進しもって世界平和とロータリー精神の増進に寄与」すべく決意を新たにしておるものでございます。

この意義深い記念式に当り今後共一層の御親交を賜り相互に益々盟約の実を挙げその目的達成に努力しようではありませんか。

終りに斯くも盛大な記念式典を挙行せられ大勢の私共を御接待下さいました貴社並びに社友と御家族皆様一同を代表し心からなる感謝を申し上げますと共に貴国並びに貴社の益々の御発展と各位の御健勝と御多幸をお祈りいたし御挨拶といたします。

昭和51年2月16日

鶴岡ロータリークラブ

会長 佐藤 忠

台中港区扶輪社
社長 呉 金生 殿

アメリカ東海岸を旅して

鶴岡工業高校 阿部清三先生

今日も又御招待にあずかりまして誠に有難く御座居ました。出発する前にこの昼食会におまねき頂きまして一応スケジュールを御説明して出発したのですが、往復の日程については先程お話をしましたインターアクトクラブの訪米研修団と同じ日程で御座居ました。

鶴岡を1月3日に発ちまして、東京1月4日、サンフランシスコ着が現地地1月4日でありました。私はそこからインターアクトメンバーと行動を別に致しましてアメリカの国内航空のTWAという飛行機に乗りまして、サンフランシスコを発ちましたのが丁度12時でした。

皆さん御承知の様にアメリカはあの様に大きな国ですから、しかも縦横に広いですから時差があります。アメリカ大陸をジェット機で横断するのに(ジェット機の大きさはDC8位の

きさです)5時間かかります。(サンフランシスコ西海岸からニューヨークの東海岸迄)アメリカはこの様に大きいのでアメリカの国内でそれぞれ時間帯、時差の時間帯があります。タイムゾーンというのですがその時差帯がアメリカには4つあります。東海岸時間、西海岸時間、中央時間、山岳地帯時間と4つのゾーンにわかれて居ります。西と東、サンフランシスコとニューヨークとの時差は3時間あります。先程申した様にサンフランシスコを12時に発ったのですがニューヨークについたのは何時と申しますか。5時間かかったのですが向うへ着いたのは夜の8時になるわけです。

今回の私の訪米は出発前に申した様に、特に小花先生から御尽力あったものと思いますが市長さんのメッセージを持って参りました。つまり鶴岡と姉妹都市であるニューブランズウィックの方に行った訳です。2番目の目的は姉妹クラブであるニューブランズウィックのクラブと親交を深めること、3番目に昨年度1年間お世話になったバーバラクレーマーという女子高校生とあって事後指導、アフタケアというが、それが目的です。あと私はあちこちに友人が居りますが特に3年程前にRCの例会に出席させて頂きました。私の旧友であるミスターポールパーマーの家ロスアンゼルススの近くのロングビーチに行くのが4番目の目的でありました。そんな次第でニューヨークに着いたわけですがバーバラを中心としてお母さん、お姉さん3人がニューヨークのケネディエアポートというのだと思いますが、そこで私を迎えに来て呉れました。私を見るとバーバラは大きな声で「おじさん」と日本語で声をかけてくれました。非常に懐かしいというのか嬉しいというのか、毎度のことですが人と人のつき合いを温かく感じました。

皆さんよく御存知と思いますが、ニューヨークは非常に寒い処で緯度からいうと北海道と大体同じだと思いますが、温度は日中の気温がマイナス10度前後です。ただし空は真青に澄んで居り雪はあんまりありません。それで夜8時バーバラのお母さんの運転する車でバーバラの住んで居るニュープロブデンスという町ですが、大体時速70キロで約1時間で到着しました。次の日早速バーバラのお姉さんがコーネル大学というニューヨークにある学校で非常に有名な学校です。しかも彼女はコーネル大学の物理工学科のコースを勉めて居り、あとでロータリーの方に聞いたのですが、このコースに入る女子学生は非常にめづらしい位の難しいコースだそうです。そこは今休みだというので私達の世話をしてくれました。

早速次の日に市長およびロータリークラブの方に逢う為に出掛けました。前の晩に向うのクラブのミスターウエルズンキックという方に(今迄3回連絡して居りました方で三井先生もよく御存知の方です)電話をして居りましたので市長が不在という事を知って居りましたが、滞在中不在で残念乍ら逢えないとの事で代理の方と逢いました。ロータリーの方も14、5人出席されました。市のオフィシャルの方々が5人程出席されました。鶴岡市長さん、佐藤会長さんのメッセージを渡しましたが、これは日本語ですが日本語で朗読するのが正しいと考え日本語で読みました。その間全員感動だにせず聞いてくれました。その点儀式的好きなアメリカ人だなといった感じでしたが、立派だと思います。そのあとで自分で訳したものを読み上げました。彼等は非常に遠来の客を歓待してくれましてメッセージを有難うと喜んでくれました。小池さんを通じてこちらのバナー等を持参したのですがそれを渡しプレゼントとして依頼された御殿まり、日本調のカレンダー等を渡しました。むこうからもバナーを頂いて参りました。その後会食がありました。その中で先程のミスターウエルズンキックさんとロータリーの地区の交換学生委員長のお2人が中心となって懇談しました。

今回皆様のお蔭で2人の学生(いずれも私の学校から出ているのですが)伊藤君と斎藤君が行っているわけですが、伊藤はコニチカット、斎藤はオハイオに行っているわけですが、最初はバーバラの関係でニューブランズウィック地区に行く予定でしたが、むこうの返事がおくれた関係で結果的に行けなくなった訳ですが彼等は開口一番非常に申し訳けないことをした、帰ったらクラブの皆さんによくお詫びをしてくれと強く言われました。私は気にしないのでくれという様に話しましたが非常に恐縮して居りました。特にウエルズンさんは私にその時こんなジョークを言いました。実はウエルズンキックさんは安藤さんが一生懸命されて居りますボーイスカウトの仕事をしている方で、世界のボーイスカウトの本部がニューブランズウィックにありますが、そこの本部の仕事をしている方です。それで私はボーイスカウトの仕事をして居りながら約束を破る様な事をリーダーとして交換学生の受入れを破る様な事をしたのは非常に残念である云々と恐縮して居りました。

こんな状況で青少年の交換について言及して行ったのですが向うとしてはやはり姉妹都市、姉妹クラブである鶴岡からの受入れについては善意をもってやるし、やはり若い青少年の交流がロータリーの精神の近道でないかと言って居ります。そして申込があればいつでも受入れる

体制は出来ているとの事です。向こうからの受入れについては出発前お聞きした通りを伝えて来ました。今後交通等で具体化して行くことにしました。

向うではバーバラを受入れて頂きながら今回受入れ出来なかったことを重ねて恐縮して居りました。バーバラは日本から帰ってロークリー他、種々の集会に（教会を中心にしたりいろいろある）招待され色々話をした様です。バーバラの話もよかったせいかもしれません。1年間の生活について非常な感銘を与えた様でした。この様な事を話してくれました。

バーバラの家庭は米国の下の下という位の家庭ですが非常に温かい家庭でした。バーバラが皆さんに良い娘だといわれたのもこの様な明るい家庭の影響かと思われました。教育成長にその影響が強く出たものと思います。非常に感心して参りました。

伊藤君、斎藤君と逢いたいと思ったのですが伊藤君とバーバラの処は長距離バスそれも80キロ位で走るのでそれが4時間位かかる処です。残念ながら逢えませんでした。それは着いたのが4日で5日から学校が始まる為です。電話で連絡したのですがその様な訳で諦め電話で伊藤君と話をしました。非常に元気に暮して居る様でした。バーバラの家族の居る処で話をするのですから日本語だけでは失礼と思い、最初に日本語で話すか、英語で話すかききました。処どちらでもいいという事で英語で話しましたが、約半年の米国の生活ではありますが若い者の語学の進歩の早さに驚かされました。日常の会話はほとんど不便を感じないのではないかと思います。非常に元気であることをお伝えします。

次に斎藤君ですが残念ながら電話番号が解らず連絡出来ませんでした。不思議に思われるでしょうが住所が判っているので交換に聞くのですがありませんという返事が返って来ます。ロータリーの方の家に電話が無いとは考えられませんが米国では無理に電話帳にのせることをしない様です。その様な事で連絡出来ませんでした。伊藤君の電話も日本で調べた時はありませんでした。

前にも述べました様に今回の目的である姉妹都市の姉妹クラブの皆さんに逢って感じました事は、広い意味で国際交流をして行かねばならないのだと思うと同時に地球の裏側に行って温かい歓迎を受けられるのもこの様なロータリーの組織なり国際的な組織なりが如何に大事かということをつくづく感じて来た次第です。どうも大変有難う御座居りました。

◆新会員の推薦に関する氏名発表

迎 田 稔 君 迎田歯科医院長
角 田 博 君 鶴岡電報電話局長

出 席 報 告			
本日の出席	会 員 数 70名 出 席 数 48名 出 席 率 68.57%	欠席者	半田君、五十嵐(伊)君、板垣君、菅原(辰)君 玉城君、上林君、風間君、富樫君、小池君、 今野君、小松君、藪田君、三浦君、佐藤(伊)君 佐藤(友)君、新穂君、進藤君、菅原(啓)君、 高橋(正)君、佐藤(宇)君、谷口君、津田君
前回の出席	前回出席率 78.57% 修正出席数 64名 確定出席率 91.43%	メーク アップ	山本君一勝山RC 石黒君一山形南RC 笹原君一仙台RC 阿部(襄)君、五十嵐(伊)君、小松君、中野 (清)君、高橋(良)君、清水君一鶴岡西RC
ピジター	羽根田正吉君、加藤広君一鶴岡西RC 仁平源三郎君一温海RC		